

## 平成24年度第1回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成24年4月23日（月） 13時30分～14時45分
- 場 所： 京都市立病院 4階会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世  
理 事 森本 泰介, 新谷 弘幸, 棚橋 一博, 桑原 安江, 位高 光司,  
山本 壯太, 小西 哲郎, 木村 晴恵  
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

### 1 開会

### 2 議事等

#### (1) 平成24年度京都市立病院機構の組織改正, 地方独立行政法人京都市立病院機構事務分掌規程の改正について

それぞれ原案どおり了承された。

(主な質疑内容)

- ・ 研修医や専攻医の数はほとんど変わらないが, 地方独立行政法人化以降, 医員以上のいわゆる常勤医師の数を増やしている。特に, 診療科ごとにみると, 麻酔科や救急科の人員を増やしている。新棟の整備に伴い手術室を増やすこととしており, 手術への対応能力等を強化する意図がある。市立病院の機能に応じた役割を果たせるよう, 看護部やコメディカル部門の体制についても強化していきたい。
- ・ 市立病院では, 医師の負担を軽減するため, ドクタークラーク (医師事務作業補助者) を配置している。特別な資格は必要ないが, より高度な医療秘書業務を担えるよう, 教育を行っていきたい。

#### (2) 経営状況月次 (3月分) 報告

(主な質疑内容)

##### ○ 市立病院関連

- ・ この4月の診療報酬改定に十分対応できるよう作業を行っており, 一定の増収が見込まれる。
- ・ 現在建設中の新館は, 機能面等で本館より改善された設計となっている。今後, 本館の改修にも着手するため, 本館部分についても, 患者の利便性等を向上させる整備を行っていきたい。

##### ○ 京北病院関連

- ・ 年度計画の目標については, 支出のうち, 一般会計からの繰入れを除いた額分の収益を確保するという前提に立つため, 若干, 高い設定となっている。しかしながら, 平成22年度と比較して, 平成23年度は収益的にも大きく向上しており, 少しずつではあるが, 地域の住民の信頼を得てきていると感じている。
- ・ 地域包括ケアの拠点として, 地域の患者に目を向けた医療提供体制の整備が必要である。そのためにも, 職員が地域に出向いていくという姿勢が重要であり, 今後も訪問診療や訪問看護に力を入れていきたい。京都府下でも地域包括ケアの分野で先進的な地域となることを期待している。

○ 医薬品、医療機器等の購入手法について

→ 当院の物品調達は、京都市立病院整備運営事業の一環として、(株)SPC京都を通じて行っているが、全国的な物品調達の傾向、情報は逃さないようにしている。医薬品や設備については、今後も、適正な調達価格を見極めていきたい。

(3) 地域医療支援病院の役割

(主な質疑内容)

- ・ 市立病院は、他の医療機関と機能分担しながら、地域医療支援病院としての役割を果たしていくことが求められている。一方、京北病院は、新しい地域包括ケアシステムの中で、在宅療養あんしん病院としての機能を整えていく必要がある。
- 在宅療養あんしん病院（京北病院）の登録者数については、今後も、増やしていく予定である。

3 閉会